

ペルー共和国 安心して使える、農機具をもっと。

SDGsラジオを聴いてみよう！

ジャスミンのような華やかさ、紅茶のような心地よい余韻。

なんの香りだと思いますか？

実はこれ、チョコレートの原料になる「カカオ」の香りなんです。

南米ペルー共和国産のカカオは、その素晴らしい香り、味の良さからチョコレートの国際的な品評会でも注目を集めています。

世界中にあるカカオの産地を支援する食品会社の明治は、この高品質なカカオの生産をサポートするために、ペルーを訪れて、剪定機や除草機などのさまざまな農機具の貸し出しを行う「農機具バンク」を運営しています。

農家さんの経済的・作業的負担が軽減されて、質の高いカカオをより効率的に生産できるようになって、おいしいチョコレートがたくさんの人に届けば、産地がもっともっと元気になります。

みなさんもチョコレートをいっぱい食べて、このステキなサイクルに参加してみませんか？

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



ペルー共和国

ペルー共和国（以下「ペルー」）は、南アメリカ北西部に位置する面積約130万km²（日本の約3.4倍）・人口約3400万人の国です。国土は、熱帯雨林地域（セルバ）、アンデス山岳地域（シエラ）、そして海岸砂漠地域（コスタ）の3つのエリアに分かれています。その中でも、アンデス山岳地域には「マチュピチュ遺跡」や「ナスカの地上絵」などの有名な世界遺産があり、世界中から多くの観光客がたえず訪れています。日本との関わりも深く、1873年に中南米で初めて国交を結んで以来、2023年には国交150周年を迎えました。かつて日本から移民としてペルーに渡った多くの日本人の子孫たち（日系人）が、現在もペルーで暮らしています。



カカオ農機具バンク／回転式の発酵箱（明治公式HPより）

2006年より明治は、西アフリカや中南米、アジアにあるカカオの産地を支援する「メイジ・カカオ・サポート」に取り組んでいます。これは、高品質なカカオを安定的に生産し続けられるよう、カカオ農家をサポートする取り組みで、スタッフが世界各国の産地まで足を運び、現地の農家が抱えるさまざまな課題に合わせた支援を行っています。ペルーに向けては、「カカオ農機具バンク」を開設しました。これはカカオの生産に必要な剪定・除草・農薬散布などに使う農機具を、農家が無料で借りられるようにしたものです。貸し出す農機具の補修や整備などもバンクが行っています。また、より安定した条件でカカオを発酵させられる「発酵箱」を寄贈するなど、従来よりも少ない負担で高品質なカカオを生産できるように支援を進め、SDGsの達成に向けて力強く貢献しています。

キーワード

マチュピチュ遺跡

15世紀に築かれたといわれる「インカ帝国時代の謎の空中都市」の遺跡です。

剪定

樹木の無駄な枝や葉を刈り取ること。樹木全体に効率よく養分を行きわたらせ、また、病害虫の発生を予防するなどの効果もあります。

発酵箱

カカオを発酵させるために用いられる箱で、発酵により、香りのもとになる物質の生成や苦味・渋みを和らげる効果を生みます。

対象ゴール

12

つくる責任
つかう責任



みなさんにできること！

ペルーが抱えている問題に目を向け、さらに理解を深め、なにができるか考えていきましょう。

おさらい

- ペルーには「マチュピチュ遺跡」などの世界遺産がある。
- 日本から移民としてペルーに渡った日系人が現在もたくさん暮らしている。
- 「カカオ農機具バンク」で、高品質カカオを安定的に生産できるよう支援している。

メモ



SDGs ラジオ